

九州朝陽会報

平成二十年十一月一日発行 第七号

『YS-11と府立六中と新幹線』

新9回 渡邊又十郎

YS-11を開発していた日本航空機

製造株式会社(NAMC)に入社した当時は、東条輝雄氏が技術部長をしておられました。東条部長は府立六中・旧制福岡高校・東京大学を卒業され三菱重工で零戦の強度に関する設計をされておられました。東条英機の次男で新宿高校の大先輩です。府立六中の後輩なので可愛がって頂きましたが、非常に厳しい上司で技術報告書の説明で理論的に齟齬があると貧乏ゆすりが始まり、しまったと思った時は既に遅く、平手・拳骨・灰皿、時には製図用の文鎮(重さ1kgの鉛の塊)が飛んできました。NAMCから三菱重工に戻られるとき、「君は見込みが有ったから厳しくしたが、見込みの無い者は一切怒らなかつたよ」と慰められました。また、YS-11が販売促進のため米国のデモ飛行をした時は、親が出来なかつた米上空を息子の飛行機が飛んだと新聞に報道されたことが懐かしく思われます。輝雄氏は、現在もご健勝で、東京の吉祥寺に住まわれておられます。

NAMCの技術部次長を島文雄氏がしておられました。お兄様が国鉄の技師長をされていた島秀雄氏です。

新幹線の開通が昭和39年10月1日、YS-11が型式証明を取得したのが昭和39年8月、9月にオリンピックの聖火輸送を行い、実用化の時期が東京オリンピックに重なりエポック・メイキングな出来事でした。

運輸省の鉄道局と航空局は犬猿の仲でしたが、YS-11と新幹線の車両開発ではNAMCの技術部と国鉄の鉄道研究所との技術交流が盛んに行われました。YS-11の設計を参考にされるため秀雄氏から文雄氏にしばしば電話がかかってきておりました。

新幹線に採用されたYS-11の技術があります。それは、航空機では一般的であったモノコック構造(殻構造)による車体の設計です。それまでは桁や梁に外板を張る方式が一般的でしたが、外板に桁や梁と同じ強度を持たせる貝殻と同じ考えの軽量構造設計です。第二次大戦中にポルシェ博士がフォルクス・ワーゲンのビートルに採用したのは有名な話で、最近住宅にも採用されております。YS-11から新幹線の車両開発に利用された技術もありました。新幹線がトンネルに突入した際、気密を保つために通路のドアが硬くなり動かなくなつた経験が有ると思ひます。この装置は、YS-11の乗降口ドアの

気密装置をそのまま流用しておりました。また、新幹線の最高速度210kmに耐えるブレーキとして、YS-11の時速300kmの速度まで耐えられるディスク・ブレーキの技術が採用されました。



その他、多くの技術交流がYS-11と新幹線で行われましたが、これは、島兄弟の連携が大いに寄与したものであると思います。

『平成二十年度九州朝陽会活動報告』

九州朝陽会復活第三回となる本年度総会を、10月4日(土曜日)、天神の「福新楼」にて開催しました。好天が雨に変わる前の少し蒸す陽気の午後、遠くは大部分から22名の参加者でした。午後四時。総会は、島松幹事の司会で、石井会長の開会の挨拶に始まり、小泉幹事長の報告(*後記掲載)がありました。

続いて、特別ゲストの登場です。新1回生で、昭和38年〜62年まで母校で教鞭をとられ、私達多くの同窓生の恩師でもいらっしゃる佐藤喜一先生に、ご講演いただきました。先生は念願の新幹線700系で前日のご来福。

4時25分発のイベント列車佐藤号「師と弟の絆(母校への思ひ)」は、母校同窓生の絆を結ぶかけがえのない語り部の運転で定刻どおり、5時5分着。1時間の総会を終えました。佐藤先生には、これを機会に九州朝陽会名誉会員になっていただきました。

母校愛いっぱいのご講演抄録は、次号に掲載予定です。どうぞお楽しみに。午後5時過ぎ。久しぶりにご参加くださった中17回の樋口様が乾杯の音頭をとられ、懇親会は始まりました。樋口様はいつも若々しくダンディです。3つの中華円卓を囲み自由に行き来しての会食と歓談後、自由発言となり、巻頭ご寄稿の渡邊様から「来春、スターフライヤーと九州を離れ、再び国産旅客機開発のお手伝いをします」とご挨拶があり、一同拍手となりました。

懇親会の最後。恒例としております『校歌』『健児の歌』斉唱です。「我々は歌わなかつた」と仰る小泉幹事長もそろそろ覚えてくださったご様子です。今回は伴奏の楽器も音源もありませんでしたが、九響オーボエ奏者小林様の人間力ラオケの前奏に鼓舞されて、掉尾を飾るに相応しい熱唱で開きといたしました。



山下美智恵(29回)

後列

中列

前列

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| (12)島松 尚宏 | (28)小林 牧 | (7)豊田 信夫 |
| (47)白井 康生 | (29)沼田 京子 | (2)川辺 正 |
| (19)諫山 忠則 | (29)山下美智恵 | (中17)樋口大成 |
| (19)坂本 辰哉 | (10)森 重夫 | (1)佐藤 喜一 |
| (21)谷口 博 | (9)渡邊又十郎 | (3)石井 幸孝 |
| (16)佐藤 一生 | (13)大羽 宏一 | (7)小泉 純理 |
| (15)野上 秀昭 | (14)岡本 稔 | (7)小坂 弘治 |
| (8)新川 正直 | (9)河野 紘一 | |

『全ての道は、大宰府に通ず』

島松 尚宏(新12回)

「歩かんね 太宰府」実行委員長

ひよんなことから、石井幸孝会長とチームを組ませていただき、古代のロマンを探るイベントを行うことになりました。テーマは「道」。それも、太く真っ直ぐな古代の道です。千三百年ほど昔。わが国で、国造りの一環として、高規格の国道(官道)が造られていったのをご存知でしょうか。奈良・京都と大宰府を中心に、南は薩摩・大隈から北は秋田・青森までを結ぶ官道です。身近な例では、大宰府から当時の迎賓館というべき福岡の鴻臚館(こうろかん)へ、約20km、ほぼ一直線の道が筑紫の平野を貫いていました。さらにその先は、西海道・山陽道となり近畿へと続きます。

人口の僅かな時代に、道幅12mほどの道路と側溝・駅家(うまや)などの施設を規格どおりに工事した人々がいました。しかもそれは東大寺や全国の国分寺、大宰府の観世音寺などの公共工事と併行して行われました。最近、筑紫野市と太宰府市で、新たな発掘調査が行われ、交通ルールも存在したらしいことが分かりました。何が、この時代を動かしたのか、これらの事業を支えたのでしょうか？

そこには、
①税などの物流や情報伝達に必要
②大陸や半島からの使節に威信を示す
③自分たちのアイデンティティとして
国の形を整えたい

という願望が工事の担い手の民の側にもあったのでは、という気がします。

明治の鉄道、戦後の高速道路、新幹線建設とあわせ、歴史上4回しかなかった全国的プロジェクトだと、石井会長はおっしゃいます。

長崎街道などに比べ知られることが少なく、埋もれていた「官道」を、市民の目で探索し、古代の人が国造りにかけた情熱に思いを馳せ、現代の新しいふれあいづくりにしたいと願っています。

この30年ほどの発掘技術の進歩が、それを助けてくれそうです。ぜひ諸先輩方にご参加いただき、歴史はもとより地理、地質、土木(官道は、「警固断層」と重なります)などの蘊蓄を傾けていただければと思います。誌面をお借りした次第です。これまで、文化として顧みられることの少なかった「古代の道」に、一緒に、素人らしいロマンの光をあててみませんか！

～古代官道ロマン～イベント

【市民フォーラム】

申込不要 先着250名
11月3日(月・祝)
午後1～4時
福岡市博物館講堂
(中央区百道)

- 資料代 500 円
- 石井会長が基調講演をされ、沿道の市の発掘担当者による、これまでの成果発表などがあります。



「発掘された古代道路の跡」

【フィールドワーク】

申込必要30名
11月15・22・29日
1月10・24日
各回(土)9～12時

- 資料代各回 500 円
- 鴻臚館・博多から大宰府までを5区間・5回に分け、発掘担当者の案内で「官道」の痕跡を辿ります。



問合せ・申込先:「市民参加の古代官道
調査・活用事業実行委員会」

電話 092・716・8238

FAX 092・716・8254

<http://kodaikando.yoka-yoka.jp/>

【歩かんね 太宰府】12月7日まで

- この秋も新鮮な16のコース。
- お問合せ: <http://dwalk.exblog.jp/>
➤ 080-6446-3905
NPO法人太宰府ボランティアネットワーク
「歩かんね太宰府実行委員会」または、
➤ 090-1167-3819 島松まで

事務局から

● 年度会計

平成19年度会計は28,855円の繰越金を残して決算しました。再設立以来3年間、会運営費として年11万円程度で賄っております。

● 会員の現況

今年度総会時の名簿掲載者会員は75名、昨年度より1名増加。内訳は下記のとおり、退会者7名、入会者8名です。

【新入会】木村 久[4]、渡邊 彬連[5]、植村 伸宏、浜田 素司[10]、谷本 静史[18]、谷口 博、松形 恭知[21]

【退会】小栗 俊彦[8]、武井 修[10]、森岡 侑士[12]、船津 聡子[34]、柴尾 圭一[41]、福田 宙[53] 東京転出・廣澤 雅治[18]

尚、現在退会者を含め九州在住会員外同窓生は58名です。未入会のお知り合いがいりましたら、入会のお誘いをお願いいたします。

● 次期総会開催日時

これまでの3回は10月の土曜日開催で、参加者が20名余でした。今回は30名程度の参加を目標に、11月か2月開催を考えています。時期や趣向についてご意見やご希望をお聞かせください。また、その機会も兼ねまして、忘年会ほかのオフ会を企画してメールなどでお知らせします。お知らせを希望される方は、事務局までご連絡ください。

● 年度会費納入

今年度6名の会費未納者があり、会則第11条に則り退会とさせていただきます。総会参加者は、当日会費より充当いたしました。不参加の方は、同封の振替用紙でご納付ください。ATMをご利用くださると、振替料金節約になります。 幹事長 記

■ 佐藤喜一先生から総会参加者にご恵贈～「たまゆらの旅路」～

先生のお話やご恵贈のご著書にふれて、母校への思いや感慨が膨んだ方もおいでのことでしょう。ご寄稿お待ちしております。 編者 記

【発行】九州朝陽会事務局

〒811-3221 福津市若木台1-20-7
TEL & FAX: 0940-43-5545

【事務局長】小泉 純 理(新7回)

E-Mail kjun612@nifty.com

【編者】山下 美智恵(新29回)